

立命館經濟學

第九卷 第二号

昭和三十五年六月

内 容

論 説

- Ⅰ 世界市場と世界經濟体制……………小 椋 広 勝 1
- Ⅱ 幕末・明治維新における
郷土の政治的運動の展開……………岡 本 幸 雄 39
——瓶本領丹波馬路両苗郷土について——
- Ⅲ 証券分析の証券投資理論における地位……………住ノ江佐一郎 64
- Ⅳ 減価償却における更新機会……………服 部 俊 治 77
——George Terborgh 氏の減価償却論研究——

研 究

- 〈疎外された労働〉の概念(一)……………細 見 英 100

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学 第八卷・第五・六号

論説

経済哲学のための一般的序説 梯 明秀

「土地報酬」にかんする

基本的考察 松野 昭二

——中国農業の集団化・農業生産
協同組合における特徴の解明のために——

第二市場論（一） 住ノ江佐一郎

損益分岐図表に関する一考察 寺 島 平

——その信頼性と有用性について——

研究

フランスア・ケネーに 箕 浦 格 良

おける財政思想

アメリカにおける割賦販売の営業諸費用 桑 原 幹 夫

及び貸倒金の会計処理について

欧州経済共同体の性格 清 水 貞 俊

——その「超国家的」性格をめぐって——

『資本論』の学問的体系と

『帝国主義論』 本 岡 昭 良

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学 第九卷・第一号

論説

超過利潤と差額地代 白杉庄一郎

——向坂説の検討——

証券の上場について 住ノ江佐一郎

研究

〈疎外された労働〉

の概念（一） 細 見 英

資料

和歌山県地租改正反対一揆 後 藤 靖

発行所 立命館大学人文科学研究所